

相島芸術文化村

オープニングセレモニー

レクチャーハイキング



2010 広告協賛	ボランティア
染谷正弘 (DSA 住環境研究室)	伊藤 春代
ASA湖北	海老原正
ASA布佐	大島 春江
ポニークリーニング布佐店	岡田 一男
(社福法)特養 アコモード	勝木 繁昌
飯田鍼灸整骨院	川島 幸子
石井ストアー	黒川 友幸
石嶋動物病院	斉藤 誠治
(株)いしど画材	坂本 由美
(株)板橋建設	櫻井 実
(有)今井観光	佐藤恵美子
岩見印刷 株式会社	篠崎 清次
(株)大木商店	篠崎 陽子
香栄堂印房	島 崇二
(有)オフィス マエダ	菅野 哲哉
(株)春日や	杉森 敬規
(株)京北スーパー	綱川 泰章
後藤歯科	戸野倉あゆみ
コンビニエンスさいとうギャラリー	根本 香織
作庭舎	根本きく江
山洋建設工業 株式会社	艗 康彦
ふとんのシノザキ	増田 信也
株式会社 新六本店	松島明子
割烹 鈴木屋本店	宮田キミヨ
レストラン ステラ	宮田 幸雄
(有) スペース景	安河内志乃
住吉整形外科クリニック	山崎安子
創造会メディカルプラザ	吉田真喜子
すずきこどもクリニック	吉田 幸夫
根本米店	渡辺 唯男
居酒屋とんぱち はじめちゃん	渡邊 嘉之
ビジネス旅館 布佐	
千葉美術予備校 柏校	スペシャル
フサ医療器械店	サンクス
(有)布佐自動車鈑金工業	五十嵐輝雄
布佐台幼稚園	井上 厳
布佐宝保育園	音森春瑚
進学塾 フロンティア	DANCE STUDIO AZ
平和ヘルスケア株式会社	デュオ パラム
平和台歯科	ひょっとこ連合
松島薬局	松島薬局
(株) ママMATE	室坂京子
(株) 宮内建材	
(株) 宮田工務店	
(有)山新豆腐店	
レモン画翠	
田中工業 株式会社	
studio.WUU	
(株) ティ・ホーム	
ペットハウス プルート (1)必応	
悠楽庵	
(株)エーヴィスシステムズ (本) ひ川東咲デザイン東教託	
(有)及川真咲デザイン事務所 メヌエット	
>メエット	

協力
相島芸術文化村
及川真咲デザイン事務所
株式会社 板橋建設
林式云社 似個建設 我孫子市国際交流協会
作庭舎
実行委員会
実行委員長/島田忠幸
事務局長/江上 弘
会計/小山和則、石川美穂子
委員/江木 雅、おいかわみちよし
岡規子、門倉光正
金子稜威雄、洪野友誠
1000年10月10日
富山英典、乗松剛治
前田恭男、峯岸幹男
宮渕奈津子
顧問/足立俊領、石井英朗
伊勢佳彦、井上 基
榎本武一、土井紀弘
羽二生隆宏
会計監査/永澤普一、石井康之
主催/我孫子野外美術展実行委員会
共催/我孫子野外美術協会
後援/我孫子市
我孫子市教育委員会
千葉県
ハンガリー共和国大使館
フィンランド大使館
駐日韓国大使館韓国文化院
ドイツ連邦共和国大使館
ボスニア・ヘルツェゴビナ大使館
ホスニア・マルクェコピア 大使品 助成/芸術文化振興基金
助成/ 云州又北張丹泰玉 EU・ジャパンフェスト日本委員会
EU・シャハンフェスト日本安員会

発行/我孫子野外美術展実行委員会 〒270-1105 我孫子市三河屋新田8 http://abikoe.com e-mail aioe@live.jp 写真撮影/齊藤さだむ、他 翻訳/西沢三紀、山口千鶴、他 デザイン/及川真咲デザイン事務所 印刷/株式会社エーヴィスシステムズ



13th Abiko International Open-Air Art Exhibition 2010



ごあいさつ

第13回我孫子国際野外美術展の開催、誠におめでとうございます。 1998年にスタートしたこの野外美術展は今回で13回目を迎え、地 域の方々に愛され、この時期恒例の行事になっています。現代アートの 表現方法である、周囲の環境も作品の一部として取り込んでいくインス タレーションやパフォーマンスにより毎回素晴らしい作品が生み出さ れ、訪れる私たちに身近な自然の大切さを改めて気づかせてくれます。 この様な芸術と自然が一体になったイベントが継続されてきたことは、 多くのアーティストとボランティアの皆さんの協調によるものであり、 我孫子の固有の財産である「自然」を大切にするという関係者の皆さま の力強い意思の現われです。そのような意味でも、この美術展が担う役

割は、年々増しているのではないでしょうか。

今年の参加者は、最年少が4歳、最高齢が92歳の方と伺いました。 また海外からは10名、国内からは6名の招待作家の方々がご参加くだ さいました。野外美術展が国際交流、芸術文化の振興、自然保護と様々 な意味を内包し複合的に寄与していることを深く感じております。 市といたしましても「出会いと交流で活力を生むまちへ」と、将来都市 像の大きな柱として、多様な文化を生む時間と空間のあるまちをめざし てまいります。そして、皆様と力を合わせ文化の薫り高い魅力あるまち づくりに力を注いでまいりたいと思います。

野外美術展がさらに、多くの市民の交流の場となりますことを祈念す ると共に、企画から運営まで活躍されました実行委員の皆さまの様々な ご苦労に対し、改めて感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。

我孫子市長 星野 順一郎

継続が生み出した、想像力喚起の場

1961年の宇部市野外彫刻展を端緒に生まれた野外彫刻展ブームがバ ブルでいったん終息を迎えたのは、公共事業の退潮が大きな原因だが、 一方で作品と鑑賞者のあいだの一方通行の関係が時流にそぐわなかった 感も否めない。今に至る地域に根ざした美術展の草分けである 1996 年 の雨引の里と彫刻展、2000年の越後妻有アートトリエンナーレから始 まった国際展(ビエンナーレ)になると、それぞれインスタレーショ ンや参加型のアートの概念を取り入れ、より複雑な見せ方、表現のあり 方を提示し始める。我孫子国際野外美術展は1998年に始まったが、い ま盛んな地域展開の潮流の先駆に位置づけられると思う。

鑑賞者に対して超然とした彫刻表現ではなく、参加型も盛り込んだ現 代アートは、行政サービスと相性が良く、いまや文化振興プログラムの アウトソーシングの役割を担っている感もある。これは、左右対立が自



Mayor's Message for the 13th AIOE

Congratulations on the 13th Abiko International Open-Air Art Exhibition ! Starting in 1998, the exhibition has now become a grand annual autumn event cherished by Abiko citizens.

Every year brilliant works make us aware of the preciousness of nature surrounding us. Particularly, the open-air installations and live performances that take in environmental elements as part of an artwork embodying representation of modern art, have drawn attention of art lovers.

The fact that this sort of event integrating art and nature has been held without interruption undoubtedly depends on the continued cooperation of artists and volunteers, and people's strong wish for protecting nature, a treasure of Abiko. This is why I believe that the importance of this exhibition has been increasingly emphasized year by year

This year the youngest participant is 4 years old and the oldest is a 92-year-old man, and we have welcomed 10 overseas and 6 Japanese artists. I realize that this event involves various meaningful aspects such as international exchange, promotion of artistic and cultural activities and protection of nature, all of which dynamically interact with each other

We do our best to form a city in our future vision that offers people time and space to nurture cultural wealth and to establish a community generating power through encounter and interaction of people. And we will work together targeting to create an attractive city full of cultural fragrance.

I hope that this popular open-air art exhibition will continue developing itself further more as an event encouraging friendship among citizens.

Finally, I would like to express my deepest gratitude to the committee members for their hard work ranging from the planning to the total operations. Thank you

Mayor of Abiko City Junichiro Hoshino

Continuity created a place that stirs one's imagination

An open-air sculpture exhibition boom dates back to Ube-City Open-Air Sculpture Exhibition in 1961. The bubble burst ended this boom once mainly because the number of projects of public works declined. On the other hand, there is no denying that the one-way relationship between artworks and the viewer were against the trend of the times. As for "Amabiki Village and Sculpture" in 1996, which has been held to date as an art exhibition pioneer rooted in the local community, and international exhibitions (biennial) that began with Echigo-Tsumari Art Triennale in 2000, they introduced more complex ways of exhibition and expression, adopting installations and the concept of interactive art. Abiko International Open-Air Art Exhibition launched in 1998 is considered to be the pioneer in the tide of local enhancement, which is a hot issue now

In contrast to sculptures that stand aloof for the viewer, contemporary art that incorporates interactive communication is well suited for services provided by a local government, and I have a feeling that it is now playing the role of outsourcing for

明であった頃と異なり、「革新」政権である民主党内閣が推進する「新 しい公共|政策が、行政と市民の対立型ではない社会形成を模索してい るからでもある。

しかし一方で、いわゆるコミュニティアートは受け狙いのわかりや すさ、迎合に走る怖れもある。芸術の自律性を肝に銘じておく必要があ るだろう。本展は助成や支援を仰ぐことがあるものの、市民オーナー制 をもっとも強固な運営の柱にしていると聞く。自治体や財団の財政事情 に左右されない経済基盤は、自律性確保に欠かせない。私も地域プロジ ェクトの経験があるだけに、継続の困難さはよくわかる。13回もの開 催はまさに至難の業だろう。代表の江上弘以下、実行委員、スタッフの 努力に敬意を表したい。

先に地域展開のアートが盛んと書いたが、これは欧米のビエンナーレ ブームの反映でもある。インターネットの発展は作家の国際的な活躍を 促進し、毎年世界の大都市で国際展が花開く。人気作家はテニスプレー ヤーのように、国際展のサーキット出場をこなしていく。こうした状況 にあって、(外国勢だけでなく日本勢も)作家はこれまでの創作のエッ センスを手軽に組み合わせた作品でお茶を濁す場合もままある。これに は、時間、資金的余裕がない事情もあるだろう。作家の創造性を十全に 発揮させる体制づくりが企画運営の要となる。

2010年の本展会場の周辺は住宅地も少なく、森などの自然に恵まれ、 都内のアートプロジェクトに比べ、作家の創造力を刺激する絶好のアド バンテージがある。観客にとっては、単純に緑豊かな場所を訪れる楽し みもあるだろう。一方で、作家にとっては場所性に寄り

かからないプラスの創造性の発揮が求められることと なる。

まず本展でもっとも印象に残ったのは、植野智子と井 上久仁子だった。植野の《一紀元を想う一II》は、手賀 沼の古代蓮を陶で型取り、田に設置したもの。垂直に据 えられた陶の蓮の連なりは鉄道標識のようにも見え、遙 かな時の昔の旅へと誘う。井上の《ゆらぎ》は木の薄い スライス状のもので花のかたちをあしらっていた(切 株にも見える)。井上は華道家だと言うが、これみよが しに広がる花弁ではなく、禁欲的に蝟集させた膜の連な りが、蔵という古風な展示場所と調和し、よく感興をか き立てるものとなった。



原田暁は第1回から参加するやや常連に近い存在だ

が、地面に敷き詰め、さらにベンチを取り囲むようあしらった竹の技、《根 は、私達の生命を守っている》は足し算と引き算の妙をよく心得ていて 楽しめる。こうした作家を擁することが、長く続ける財産だろう。 OZ / 尾頭/山口佳祐は前回に引き続きの参加だが、前回は場所の活か し方をイマイチつかめていなかったように思う。しかし本展の《原始》 では勘所をつかみ、自身のグラフィティの伸びやかさをうまく示せてい たように思う。こうした作家の成長を見るのもまた、楽しみと言える。 坂内美和子の《木霊 in ABIKO》は木を素材とした彫り絵を用いて、神 社聖域そのものをインスタレーション化する難題に挑戦した。周辺小学 校の生徒とのワークショップ作品の絵馬を取り込むことで、ここが歓び と祈りの場であることをより想起させる表現となっていた。

海外勢では、リ・ウンウーの《うねりーここから向こうへ》が目を引 いた。経験豊富な作家と聞くが、傾斜した地形を活かしつつまとめあげ た、スケール感ある竹の作品は見応えがあった。マヌー・スーブハニー の《なんとかなるさ~》も参加型だが、紙の花弁に書かれたメッセージ が、見るものに詩情という架け橋を生んでいたように思う。

こうして見ると、木や竹といった地域になじみの深い素材を用いた作 品、そして単なる親しみではなく、参加することが想像力のステップへ とつながる作品に面白さがあったように思う。困難な時代にあって継続 していくのは大変なことだが、見るものだけでなく、作家の想像力その ものを刺激する場としてより発展していってほしい。

cultural promotion programs. It is partly because, different from the time when confrontation between the left and the right was self-evident, the cabinet of the Democratic Party of Japan, seemingly reformist administration, is trying to promote a "New Public Commons" policy to form a society where the administration and citizens do not confront each other.

From another point of view, there may be a danger that so-called community art is interpreted to be an easy attention-getter. We should remind ourselves of the independence of art. I hear that the strong central pillar of the management of this Abiko exhibition is the citizen's ownership system, though they ask for some subsidies and support from outside as well. The financial basis that is not affected by the financial situation of the local government and/or foundations is crucial to maintain the independence of art. As I myself have experienced the management of local projects, I well understand the difficulties of continuing them. I believe that it is a task of extreme difficulty to organize a project as many as thirteen times consecutively. I would like to express my respect for Hiroshi EGAMI, the representative, executive committee members and staff.

As I mentioned above, arts promoting local enhancement are becoming popular, and it reflects a biennial boom in the West. The Internet expansion has encouraged artists to work internationally, and consequently international exhibitions are held in different cities in the world every year. Popular artists are now taking part in them energetically like a tennis player playing in circuit tournaments. Under these circumstances, some artists (both Japanese and non-Japanese) occasionally deceive viewers' eyes with their works in which the important elements of their past works are conveniently reused by putting them together. It is probably because they have neither time nor fund to spare. The key to implement a project is to frame a system that enables artists to demonstrate their abilities fully. With the blessings of nature such as woods and few residential areas around the

venue of this exhibition in 2010, artists could enjoy a perfect opportunity to have their creativity stimulated, compared with art projects held in Tokyo. They are expected to show positive aspects of their creativity, not relying on the advantage of the site. Also visitors find pleasure in visiting a place full of rich green. Works by Tomoko UENO and Kuniko INOUE were most impressive in this exhibition. "Thinking of the First Era—II" by Ueno shows ancient Teganuma lotuses made from molded ceramic, arranged in a paddy field. A series of ceramic lotuses arranged to make lines look like railroad signposts, beckoning us to the far-off days. "Wavering" by Inoue displays the arrangement of thin wood slices into a form of flower, which also looks like a stump with growth rings. A large flower created by Inoue, who is known as a flower arrangement artist, shows ascetically gathered layers of thin pieces that look far different from real petals that spread out in an ostentatious way. The work harmonizes with the old warehouse where it was placed, exciting our interest

Akatsuki HARADA, who is almost considered to be a regular because he has participated in this project since the first one, presents "Roots protect our lives," in which long bamboo sticks are bent to wrap up a bench. We can enjoy the wonder of the combination of addition and subtraction. Having such artist as participant is a valuable asset for continuing a project. OZ/Keisuke YAMAGUCHI participated in this project for two years in succession. Last year I could have hoped for his better use of the place, but in his work "native" this year, he grasped the essentials to demonstrate exquisitely an unrestrained expression of his graffiti. It is also a pleasure to see how artists are growing. To produce "Echo in ABIKO," Miwako SAKAUCHI tackled a difficult task of making a Shinto shrine sanctuary into an installation by using wooden boards to carve pictures. Including ema (votive horse tablets offered in prayer) which children from an elementary school near the yenue made with her in a workshop, she could successfully show that the site of the exhibition was a place for joy and praver.

Of works by artists from overseas, "A Wave-from one to the other" by RI Eung-Woo attracted people's attention. I heard that he is an artist with years of experience. His bamboo work with good use of sloping ground is impressive making us feel the groove. "What will be will be" by Manou SOOBHANY is an interactive work, and messages written on petals made of paper seemed to build bridges loaded with poetic sentiment for the viewer

In conclusion, interesting works were those in which locally familiar materials like wood and bamboo were used and which encouraged visitors' interactive activities to arouse their imagination. I understand that it is a big challenge to continue this kind of activity in these trying times, and sincerely hope that this project will develop to provide an opportunity not only for visitors to experience interesting works but also for artists to stir their imagination



deisui—泥酔—泥	水
AG (日本) AG (Japan)
素材:土、ミクストメデ	ィア 場所:布佐市民の森





空間分光—Place Spectral 島田忠幸 (日本) Tadayuki Shimada (Japan) 素材:アクリル、水、木 場所:布佐市民の森

①有明海—Ariake Inlet ②竹の子の家—House for bamboo shoots 五十嵐グループ (日本) Igarashi Group (Japan) ①素材:陶、土、水、空き缶、他 場所:布佐市民の森 ②素材:竹、他 場所:布佐市民の森



①ムツゴロウおじさん(92歳)よりの一言 -住める環境を返して! --人間よ、驕る無かれ! Words of 92-year-old Uncle Mutsugoro -Bring back the inhabitable environment! -Coexistence and co-prosperity! -Be modest, everybody!



G

金子稜威雄 (日本) Itsuwo Kaneko (Japan) 素材:鉄 場所:布佐市民の森

玉は、重力の法則で動きます。 Balls move by the law of gravity.







光を……



▶ 5



②竹の椅子に座ると元気がもらえます。

- 竹の子はすくすくと伸びます。

ー子供もすくすくと成長することを願っています。

一家の中に子供達が楽しめる工芸品や絵を展示して います。

-私達は子供が元気に成長することを願って作品を 作りました。

You can lift your spirits when you sit on a bamboo chair.

-Bamboo shoots grow rapidly.

-I hope that children will grow up healthy as well. -In the house are craftworks and pictures that children can enjoy.

-We produced works in the hope that children will grow up healthy and lively.







好ましくない固体を、どう好ましい姿で 表現するか、その一つの提案がこの作 品を生みました。 This work was conceived as a proposal for expressing an unpleasant object in a pleasant form.



カバーーCover 門倉光正 (日本) Mitsumasa Kadokura (Japan) 素材:竹 場所: 布佐市民の森



♂♀△△ 家族である時—♂♀△△ Family

4Women's Art ground (木村利加子、澤崎静江、清水京子、 関谷俊江) (日本) 4 Women's Art ground (Japan) 素材: 竹、アルミホイル、他 場所: 布佐市民の森

土偶を出発点にして、

未来に繋がるファミリーをイメージしてみました。 With clay figures as the starting point, we produced an image of family to be connected to the future.





ふぉーかす2— Forcus 2

小山和則 (日本) Kazunori Koyama (Japan) 素材 : 竹、ワイヤー、石 場所 : 布佐市民の森

この作品は、昨年の私の作品「ふぉーかす」の連作となる ものです。

昨年の作品「ふぉーかす」では「相島芸術文化村」を点と して表現いたしましたが、「ふぉーかす II」では、「相島芸 術文化村」を中心とする手賀沼から連なる「農の風景」を 面としてとらえ作品化を図りました。これは「相島芸術文 化村」に対して、地域に根ざした文化活動拠点として、こ れからも多次元的発展を期待したいという私の熱い想いか らです。

This work consists a series with my work "Focus" from last year.

Last year, Aijima Art Center was expressed as a point, and this time, I tried to capture "agricultural scenery" linked to Teganuma around Aijima Art Center as a surface. It is my keen desire to see Aijima Art Center develop in a multi-faceted way as a cultural base rooted in the community.



てるてるボール〜止まない雨はない〜 ―Shine, shine, little buddy of mine, Rain stops without fail

布佐台幼稚園の園児たちと雪葉 (日本) Children of Fusadai Kindergarten + Yukiyo (Japan) 素材:ビニール、アクリル、他 場所:布佐市民の森

- 橋 長い間、ありがとう。向こう側に渡してくれてありがとう。みんなの「あり がとう」を書ける様にマッキーを置いておきます。
- 虹 -子供は虹が好きです。大人も虹が好きです。雨が止んだ後に見れる橋だ からでしょうか?向こう側に渡れる幻だからでしょうか?
- 渡る一虹の橋を渡ることができます。みなさん、おそらく初めての体験となるでしょう。
- Bridge Thank you for letting us go over to the other side for years.
- Rainbow Children like a rainbow. So do adults. Is it because it's a bridge that we can view when the rain stops or a fantasy that we can go across?
- Crossing You can walk across a rainbow bridge. Probably it'll be your first experience.







A Wave - from one to the other

リー ウン ウー (韓国) Ri,Eung-woo (South Korea) 素材: 篠竹 場所: 布佐市民の森



静寂な森の中で、 自然と融合するのは? 風・光・音、 耳をすましてたたずんで・・・・・・ How do you like to become a part of nature in the silent forest? There are wind and light, and you can hear sound if you strain your ears.







All of the trees are share the space very peacefully in the forest. But a man always quarrel to get more territory. Therefore my "A Wave" symbolize that we should have good relations from around in our life. 全ての樹木は、森でとても平和に空間を分け合っている。しかし、

人間は、さらに領土を得ようと常に争っている。「A Wave」は、我々の生活において、我々は良い関係を持つべきであることを表現している。



森の Symphony (シンフォニー) —Symphony in Forest 前田恭男 (日本) Yasuo Maeda (Japan)

前田(ホカ (日本) fasuo Maeda (Japan) 素材:塩ビ管、スチール管、ワラナワ、藤ズル、他 場所:布佐市民の森

▶9

ツレヅレナルママニ・・・・ —Tsurezurenarumamani… (meaning "killing time")

おいかわみちよし(日本) Michiyoshi Oikawa (Japan) 素材:カラーベニヤ、カットシート文字 場所:布佐市民の森

「ひまにまかせて一日中、硯に向かい心に浮かんでくるとりとめのな い事を、なんとはなしに書き綴っていると、なんとまぁ心が乱れ、 気違いじみた心地がすることだわい」

漢字80文字を森の小道にばらまき、「徒然草」の冒頭部分のイメージを表現したものです。

Eighty cards with a kanji character on each of them are placed here and there along a path in the forest, conjuring up an image of the beginning of "Tsurezuregusa."



ナチュラルテープ—Natural Tape

千葉工業大学遠藤政樹研究室(日本) Masaki Endoh laboratory of Chiba Institute Technology Department of Architecture

素材:スズランテープ,竹、鉄パイプ 場所:布佐市民の森

人々を誘い込む壁から、次第に人々を包み込む屋根へとテープの姿が移り変わり、 外にいたのに内へ、内にいたのに外へと、竹の空間を外と内を行き来させます。 竹の群れる中央には、あるはずのない、でもあたかもここに存在していたかのよう な2.5 m角の白いキューブが浮いており、キューブ内では、白い光に包まれた不自 然な自然が存在しています。

この竹広場には決してあるはずはない、しかし存在する白いキューブは、否応なく その存在を強要し、この白いキューブの持つ存在感を白の帯によって領域を可視化 することで、1つの大きな空間を創出します。





The form made of strips of tape changes gradually from a wall inviting us inside to a roof that wraps us up, so we come inside and go outside in the space made of bamboo. In the center of a clump of bamboo floats a white cube of 2.5 meters, which cannot be there but looks as if it has been there. In the cube is an unnatural setting of nature wrapped up by white light. The white cube, which cannot be in the open space of bamboo but actually exists there demands its existence whether we like it or not. It visualizes its presence and territory with white belts to create a single large space.



② 3m²のスペースが深い竹やぶの中から切り取られた。その中心にウエストまでの高さに切ら れた竹の棒は平面的なスペースを生み出す。切り開いた細長い地帯は入り口から出口まで続いて いる。その真ん中にアルミ箔に包まれた細い木の枝が線となって浮かび揺れ動いている。竹の 棒に定着した水が、鐘形ガラスに入りレンズのように「3pm-7am」を拡大する。 水が入ったガラス玉は平面のスペース上に定着された。全成分が時間の象徴をする。 時間のシンボルの繋がれに速さとセティングを加え、同時に看取が可能になる。 In a thick bamboo forest, a space of approximately 3m² was cut out. In the middle of this space bamboo staves were cut to the waist in order to create a flat surface. A corridor passes by and leads to another exit. A silver plating tank is standing isolated as a free floating line in the space.



One water filled bell-glass is fixed on a bamboo stave and magnifies like a lens the dates 3pm-7am. A bulb shaped form out of glass also filled with water is hanging in a bow over the cut bamboo plain. All elements carry time related symbols. The dimensions of growth are enmeshed in time which separates them. In their relations, these symbols of time could be perceptible simultaneously due to their speed and arrangement.

根は、私達の生命を守っている。 -The ROOT has protected our lives. 原田暁 (日本) Akatsuki Harada (Japan) 素材:竹 場所:布佐市民の森



①木にセットされたオブジェは三つの特色を組み合わせた作品で ある。円とした形に周りの線と色が反射され、抽象的な作品が現 れる。透視図の変化に従って、写ったイメージが変わる。 Material: plant pot, mirror foil, wire, light bulb, water Comment: An object which combines projections, reflections and transformations in a tondo is installed in a tree. Light and fragments of the surrounding are taken in as an abstract composition of lines and colors. In the movement of perspective the resulting images are changing.

① Reflector 一反射鏡

 Signs in time-space一時空におけるサイン アルムト グリニン (ドイツ) Almut Glinin (Germany) 素材:①植木鉢、鏡箔、ワイヤー、ガラス玉、水 ②竹、ガラス椀、針金、 ガラス玉、水、アルミ 場所:①布佐市民の森 ②相島の森

騒音車—Noise mill クルト アップ (ドイツ) Kurt App (Germany) 素材:木、竹 場所: 布佐市民の森

今回の作品構造はサボニウス「Savonius」風車のロートルをもとにしたものである。構造自体がエネルギーを出す。竹の引き口はロートルの上にある栓に打たられる。

フィンランド出身の発明家サボニウスはこの風車のプ ロトタイプを発展した。

The construction is a wind mill in the sense of a Savonius Rotor. This mechanism gives the energy. On the top of the rotor there are plugs which strike the mouthpiece of bamboo tubes. Savonius was a constructor from Finland that developed this prototype of windmill.









原始 — native

OZ /尾頭/山口佳祐 (日本) Keisuke Yamaguchi (Japan) 素材:合板、角材、アクリル 場所: 布佐市民の森







ゆらぎーWavering 井上久仁子(日本) Kuniko Inoue (Japan) 素材 : 経木 場所 : 相島芸術文化村

命の始まりは、ゆらぎから始まった様に、 経木を輪にして先は時間を表ほす。 少しずつ少しずつ、命がゆらいでいます。 Life begins with wavering. Shaven wood slices are made into a circle, and their upper ends symbolize time. Life is wavering just a little.



色彩の詩—Poem of Color 大本茁 (日本) Megumu Ohmoto (Japan) 素材: アクリル、キャンバス 場所: 相島芸術文化村











使われなくなった井戸。大正期のものと言う。この土地の歴史は手賀沼干拓 の歴史と重なる。「水」を克服すること、「水」と共存すること。この井戸が 象徴的な場所だと感じた。

It is said that this well that is no longer used was used in the Taisho period. The history of this district overlaps that of the reclamation works of Teganuma Swamp. It was important to deal successfully with "water" and coexist with "water." I think that this well is a symbolic spot. 土を触ったときの気持ちを憶えてほし いと考え、子供達に一つづつ陶板をつ くってもらいました。 As I wanted children to remember a feeling of touching clay, I asked each of them to make a ceramic board.





みたまいれ (銀の井戸) —To the spirit of the dead (Silver Well)

渡辺五大 (日本) Godai Watanabe (Japan) 素材:アルミ箔、布のり 場所:相島芸術文化村

TOMORROW

唐沢みき (日本) Miki Karasawa (Japan) 素材:ミクストメディア 場所:相島芸術文化村

情報が氾濫する世界の中では、自分自身が本当は何を求めているのか解ら なくなってしまうことが誰にでもあると思います。

そんな時、目を閉じて耳をふさいで・・・心の声を聞いてみましょう。 「私は光を求めていたのだろうか?それともただピカピカと光るおもちゃを求 めていただけだったのか?」世界が急に小さなおもちゃ箱のように思えた。 「この世界は、私の心だ。」

誰もが大人に変わる時、セピア色の心の森をさまようように葛藤があります。 そんな時こそ自分の心を信じて進もう。「世界を彩る明日の自分が待ってい る。」

As the world is flooded with information, I think it happens that we all lose sight of our goals. In that case, we should close our eyes, cover our ears with both hands to listen to our hearts' voices.

"Am I looking for light or only a shining toy?" Suddenly the world looks like a box of toys to me. "This world depends on my heart." When we become grown-ups, we are torn between conflicting emotions as if we were wandering through the sepia-colored woods in our hearts. That is exactly the time for us to believe "in ourselves who are going to give colors to the world tomorrow."



<image>

土の気憶プロジェクト―Memory of Earth

江木 雅と布佐南小2年生(日本) Masashi Egi + Fusaminamisho2nd class children (Japan) 素材:粘土、麻紐 場所:相島芸術文化村



一 紀元を想う一耳—Thinking of the First Era
植野智子(日本) Tomoko Ueno (Japan)
素材:陶、鉄 場所:相島献穀田

昔は近くまで手賀沼が広がっていた、という布佐の地に 手賀沼の古代蓮を型取って陶で作り植えました。 制作期間中は台風が来たり、と厳しいものでしたが布佐 の自然は素晴らしく、雄大な田の向こうに沈む夕日を見な がら地元の方々の励ましを受け完成させることができまし た。

全体のインスタレーションは五輪の形を用いて、この田 を開拓した先人へ想いを馳せながら設置しました。 助けてくれた友人や家族の助力で、かけがえのない時間 を過ごせたことに心から感謝しています。

In the old days, Teganuma extended nearly as far as Fusa in Abiko. I made ceramics in the shape of an old lotus of Teganuma, and arranged them in the field of Fusa. As a typhoon came during the production period, I had a hard time, but the magnificent view of Fusa impressed me. In spite of all difficulties, I could complete my work thanks to the encouragement of local residents, looking at the setting sun beyond the grand rice fields. Feeling sentimental for predecessors who cultivated this field in the past, I made and arranged the whole installation in the shape of five rings. I'm grateful for assistance and support that my friends and family have given me for this special experience.





ここは自分だけの為の居心地の良い場所で す。

二つ有るのは自分の中の陽と陰一善と悪一プ ラスとマイナスを表しています。 皆さんも、ぜひ御自分だけの為の居心地の良 い場所を探してみませんか?

Two cozy places made especially for me represent my two inner qualities—the positive/negative, virtue/evil and plus/ minus. Why don't you look for a place where you are the only one that feels comfortable?



場所:相島の森



居心地の良い場所―Comfortable Place	
石川美穂子 (日本) Mihoko Ishikawa (Japan)	
素材:木、布、植物 場所:相島の森	
	17
	.,
生まれ変わり — Rebirth	
カーラ シューベルト (フィンランド)	
Carla Schubert (Finland)	
素材:羊毛、蜜蝋、ナイロン、糸、プラスチック、真珠	

人間がお互いに結びついていることで ある。繋がりが死後続いて行く。 One person is tied to another in a relationship. Ties go on to exist even after life.



Messenger — Sound of forestソン べ(韓国) Sung-baeg (South Korea)素材:竹場所:宮の森公園

我孫子の竹林で聞こえる音に霊感を得て制作した。 森が話す音を表現した。

森はいつも、たくさんの話を私たちにする。 A flash of inspiration for producing this work came from sounds I heard in the bamboo thicket in Abiko. The work represents sounds that emerge from the woods. The woods always talk a lot to us.



fly to the sky — 飛翔、空へ… キム キュン ホ (韓国) Kim,Kyung-ho (South Korea) 素材:竹、合成紙、プラスティック 場所:宮の森公園

l want to fly to the sky… Ready to fly to the sky… 空へ飛んでいきたい。 そして、その準備はできている。









世界中から、うそつきやいじわるな子どもをさらってきて、 北極のアイスクリーム工場で働かせてしまう怪盗 X。そ の正体とは?工場の全ぼうも想像して創りあげました。 Phantom thief X kidnaps children who are liars and ill-natured from all over the world and makes them work in an ice cream factory in the North Pole. What is X? Participating children produced the work conceiving a full view of the factory in their imagination.

Focusing on complex and various relations between human and nature, this work expresses a difficult political choice of development or preservation.

この作品は、人間と自然の間に於ける固定観念や様々 な関係性に焦点を当てることによって発展と保存の難 しい政治的選択を表現している。





怪盗 X とアイスクリーム工場

-Phantom Thief X and Ice Cream Factory

布佐宝保育園(日本) Fusa takara preschool (Japan)
素材:牛乳パック、アルミ、アクリル、他
場所:宮の森公園

糾錯―Being in a tangle キム ジュン ミン (韓国) Kim,Jung-min (South Korea) 素材:糸 場所:宮の森公園





COMPACT CUBE

エロッス イステュヴァン (ハンガリー) Eross Istvan (Hungary) 素材:竹、針金 場所:宮の森公園

耳で見て、目で聞くこと。 Looking by ears, and Hearing by eyes.



未開紅 2010 ~ A Different World ~ 戸祭瑞香子 (日本) Mikako Tomatsuri (Japan) 素材:発砲スチロール、牛乳パック、竹、アクリル 場所:布佐市民の森

この作品は、「借りぐらしのアリ エッティ」という映画を見て、私 達が実際に小さい人間になった 時、例えばたんぽぽの綿毛はどの ように見えるのだろう? というと ころから、思いつきました。また 小さい人間になった時、綿毛を見 上げたら、七色に見えるのではな いだろうか!?という想像から色を つけてみました。また、今回は、 綿毛部分は、牛乳パックを使用し ました。作家の近所の方々や子供 達やそのお母様。教室の生徒さん に協力頂いて、集めることもでき、 制作も手伝って頂きました。

When I saw a movie titled "The Borrower Arrietty," it occurred to me how dandelion tufts, for example, would look like to me if I were a tiny person. I thought that such a tiny person would see dandelion tufts in seven colors, so I colored my work. This time, I used milk packs to make dandelion tufts. Many people including my neighbors, children and their mothers helped me gather milk packs and also with the production work.

マヌー スーブハニー (モーリシャス/ドイツ) Manou Soobhany (Mauritius / Germany)

貝合わせ — Kaiawase 素材:竹、籾殻 場所:宮の森公園

貝と竹を開ける、自らにインフォメーションが現れてくる可 能性がある。貝合わせが出来れば 「Me」と「We」は同 ーの物になれる。人生とアートプロジェクト□家族□社会□アー ト作品の組み合わせは自らの瞬間を反射して行く。

Opening the shell and bamboo may reveal some information to us. By closing the shell [Me] and [We] can become One. Life and relation in Art projectfamily-society-art work reflect this every minute of our life.



funny.





掃除 —Cleaning 素材:掃除に費やした時間 場所:宮の森公園

クリーニングは野外における人工のアクションで ある。それは、自分の限界を知るささやかな行為 なのだ。

Cleaning is a man made action against the outside happening. Finding our limits of acceptance with what is happening.

-What will be will be 素材:紙、インク、糊 場所:布佐図書館

個人の人生に重要な影響を与える決定事項は、 いつも私たちの承認なしによって決められる。 例えば:男女の性別、生まれた場所、生年月日、 顔つき、性格、家族、社会的そして経済的な地 位、センス。我々が決められることは影のよう なことしかない。これは面白いことである。

The most important decisions in our life are taken without our approval: gender, date and place of birth, physiognomy, mentality, parents, social and economic class, taste... We end up taking decisions about details and still there are shadows. In a way it is



Walking Bamboo 素材: 篠竹 場所: 宮の森公園







このインスタレーションは1913年に出版されたフロイトの「トーテムとタブー」 に言及した。作品は原始アートの儀式のように、自然と人間の間の調和を目指している。

This installation is partially a reference to Freud's book 'Totem and Taboo' that was published in 1913. The work returns to the art early functions aiming to establish balance between nature and humans beings.

五つのト・	ーテム — 5 t	otems	
			ボスニア・ヘルツェゴヒ and Herzegovina)
素材:竹、	アクリル、イング	7 場所:宮の新	森公園





へび — Snake	_
平井理都子 (日本) Ritsuko Hirai (Japan)	
素材:糸、石 場所:布佐市民の森	





うっそうと暗い境内。地面は落ち葉で一面に覆われ、 こんもりとした木々の隙間から白い日差しが差し込 む。ここは仙元宮。

かつてもよりの新利根川と手賀沼を結ぶ水路、六軒 堀に堤防が築かれ、新田開発が始められた。ここは 銚子から江戸へ至る水路にもあたり、鮮魚を運ぶ手 賀沼船運が栄えていた。しかしそうした賑わいは、 時代の変化で今は見る影もない。この移り変わりを 見守っていたかのように、この神社が鎮座する。 失われてしまった水の交通。この賑わいを、作品の なかで蘇らせたい。私は昔から人々に馴染みが深い 絵馬をモチーフにしようと思いついた。

The ground inside the precincts of Sengen Shrine is dark with thick foliage and fallen leaves all over. White rays of the sun filter in through thick woods.

There was once a waterway connecting near-by Shin-Tone River and Teganuma, and an embankment was built at Rokkenbori to cultivate new rice fields in the Edo period. The waterway connected Edo and Choshi facing the Pacific Ocean, and Teganuma sea route for ships to transport fish was successful. At present, however, there is nothing like it used to be as times change. The Shrine looks as if it had been watching all periods of transition. I wanted to revive the bustle of water transportation of those days in my work. I thought of adopting ema that is familiar to people as the motif.

カッパの家 — Kappa House

青少年相談員と布佐の子どもたち (日本) Leaders of children + Children of Fusa (Japan) 素材:ミクストメディア 場所:布佐市民の森

> カッパは我孫子市のキャラクター。カッパの住める 町=自然が有る町ということで子供達と自然の大切さ を考える。

> Kappa (legendary creature in Japanese folklore) is a symbolic character of Abiko. A city where kappa can live is a city blessed with nature, and we think about the importance of nature.



木霊 in ABIKO — ECHO In ABIKO

坂内美和子 + 布佐小5年生 (日本) Miwako Sakauchi + Fusasho5thclass chirdren (Japan) 素材: アクリル、ホウの木、シナベニヤ 場所: 浅間神社





浮波曲線 2010 — Floating Wave 2010 サクサベウシオ (日本) Ushio Sakusabe (Japan) 素材:帯鉄板、石、ステンレスワイヤー、針金 場所:宮の森公園

地表上において、自然の法則である重力をビジュ アルに表現しようとしている。 Gravity as a law of nature is expressed visually on the surface of the earth.









手賀に羽ばたく— Will be fluttering to Tega

乗松剛治+ゆうかり工房 (日本) Yoshiharu Norimatsu+Yukari Atelier (Japan) 素材:アクリル、布、ロープ、他 場所:布佐図書館脇



Work Shop 2010



アクリルでペイントしたシナベニヤの合板に、願い事を彫刻刀で彫って、 文字や絵であらわし「絵馬」を制作。

[木霊 in ABIKO] 坂内美和子&布佐小学校5年生の子どもたち

布佐小学校5年生の子どもたちに、ワークショップに参加してもらった。かれらと私の手 による絵馬のコラボレーションである。アクリル絵具でペイントした絵馬に、思い思いの 言葉や模様を彫刻刀で彫ってもらった。完成したものは、子どもたちと仙元宮の境内の 木々などにつるした。一体となって紡ぎ出される協奏曲を楽しんでもらえたのなら幸いだ。



会場となった浅間神社に、みんなで「絵馬」を飾る。

会期終了後には、それぞれ家 に持ち帰って活用してもらう。









[土の気憶プロジェクト] 江木雅&布佐南小学校2年生の子どもたち 布佐の森のものを土に写しとろう! そして、土とはどんなものかを感じてみましょう。 葉っぱやドングリなどを写し取った円盤状の土を焼いて、 子どもたちは相島芸術文化村の数本の木に自分の作品を吊るす。

芸術と文化のまちづくりにご協力ありがとうございました

2010 市民オーナー	石井 英郎	岩井 礼子	枝村 潤	梶野 栄子	川侯 清	毛塚 正毅	小山 和則	斉藤 玲子	清水 澄夫
	石田 直美	岩瀬 雅史	海老原美宣	加藤マリ子	川村 信夫	倉部 俊治	齋藤 君子	坂内 五郎	清水 美穂
相澤 哲二 アライ=ヒロユキ	石山 珠会	上田 義一	大川 洋一	香取 孝俊	川村 豊	黒川 友幸	齊藤さだむ	坂巻 朋子	十文字栄一
青木 章 荒木 恒夫	磯 安代	江上さくら	大谷 正	神尾和寿	木内 昭人	古木 修治	斉藤 澄子	桜井 栄子	杉山 敦彦
秋田 清美 飯島 峰子	磯辺 久男	江上 花子	大畑 章	神尾博子	木南 勉	国分 和子	斉藤 誠治	桜井 実	鈴木 茂夫
秋田 竜樹 飯塚 新一	伊藤 正順	江上 弘	大畑 照幸	加茂 進	木村 孝夫	腰川 幸夫	齊藤多賀子	沢田紀久男	鈴木 重紀
朝山明彦飯塚豊	井上久仁子	江上由美子	大本 茁	唐沢 みき	ギャラリー・イ	小島 茂明	齊藤 恒久	椎名 康雄	鈴木 利子
安島を後子 五十嵐輝雄	井上 玲子	江上祐一	岡嵩	河上 尚義	ン・ザ・ブルー	小林 信治	齊藤登茂子	四家 秀隆	鈴木 肇
東 富子 五十嵐光子	今井 正直	AG(中島彩花)	小川清人	河津 征司	栗原 裕子	小堀昭彦	斉藤三枝子	嶋田 繁	鈴木 房子

Document 2010

◇薪神楽 10月31日(日) 相島芸術文化村 (倉脇特設ステージ) 出演:ひょっとこ連合





◇デュオ パラム (風) 11月3日(水) 相島芸術文化村(倉脇特設ステージ) 出演:石坂芳子(オカリナ) 高橋英子(オカリナ)





◇虹の橋で しゃボーン玉で遊ぼう 11月14日(日) 布佐市民の森



 \Diamond dance studio az ストリートダンスショー 11月3日(水) 相島芸術文化村(倉脇特設ステージ 出演:AZ

鈴木 雅	高橋 俊明	豊嶋 優子	長原 宏子	根本きく江	平野 達男	間地紀以子	峯岸 幹男	森 妙子	吉田 愛子	吉村 祐香
関谷 現	滝沢みつえ	永井 登	中村 光宏	野口 信彦	福浦 利枝	松島英乃	三宅 史行	森 久代	吉武 克敏	吉村 俊也
関谷 夢海	立澤 幸雄	中島 保則	中村ミナト	野村 昇治	藤井 克之	松原眞知子	宮腰多加雄	安武 真弓	吉竹 正実	吉村 康史
関谷 義平	田村 広文	長塚九二夫	南雲 秀博	長谷川陽子	藤井 吉彌	松本 誓子	宮田 幸雄	山口 久子	吉成 正明	吉村志津子
芹澤(一夫)	塚 孝三	中根勝彦	成嶋 文夫	服部 純子	細川 裕子	松本 正樹	深山まさ江	山中 千代	吉藤志津子	渡壁 麻里
染谷 明宏	徳本 博文	中根ケイ子	鳴滝 秀幸	羽二生隆宏	堀 智江子	丸岡 計	村越 隆	山根 雄二	吉藤 敏男	渡辺 和夫
染谷 和博	戸澤 公男	中根太喜也	新居田 亨	番留 孝一	マエノマサキ	丸山 忠勝	(株)メディア・	箭本佳人	吉藤 宣男	渡辺 唯男
高瀬紫奈子	戸祭瑞香子	中野 洋	西沢 三紀	日野早紀子	増田 恒雄	三浦 努	アンド・コミュニ	湯下 廣一	吉藤 典子	渡辺 昌則
高田みどり	豊嶋 誠	中橋 恵子	西村陽男	平井理都子	増田 輝夫	水野 哲郎	ケーションズ	吉江 正人	吉村 明乃	匿名(1名)









◇ボディパフォーマンス 制作期間中 相島芸術文化村 (表門) 出演:Eross Istvan 勝木繁昌

▶27

◇ライブパフォーマンス 10月31日(日) 相島芸術文化村 (月光倉) 出演:室坂京子(ピアノ) Kurt App (サックス・エンビパイプ)